2021年12月25日(土) 山陽新聞 [おかくらプラス]

川崎医療福祉大（倉敷市松島）の学生が、ボッチャなど障害者スポーツの普及を目的に活動している。今春にサークルを結成し、自らプレーして競技への理解を深めるとともに、11月には一般向け体験会を初めて開催。来年度には大学の正式サークルに認定される見通しで、体験会をはじめ周知に向けた活動を本格化させていく。

（小川耕平）

川崎医福大サークル「向日葵」

ボッチャ、ゴールボール…

パラスポーツ広めたい

一般向けに体験会実施

サークル名は「向日葵（ひまわり）」で、4月に立ち上げた。代表の医療福祉学部3年梶谷哲史（さとし）さん(25)が大学入学後、車いす陸上でパラリンピック3大会に出場した松永仁志さん＝岡山市＝の講演などを通じて興味を持ち「スポーツを通じて障害のある人と接し、何か役にも立ちたい」と思って同級生らを集めた。

現在は1～3年生21人が所属。競技用の道具を持っていないため、普段はメンバーが地域のクラブにお願いして競技を体験している。ボッチャのほか、ゴールボールやブラインドサッカーなどに参加。「一緒に活動したい」との声も掛かるそうで、4日には早島支援学校（早島町早島）で、足が不自由な児童生徒とメンバー4人がボッチャで競った。

早島支援学校で児童生徒とボッチャを楽しむ梶谷さん（左端）らサークルメンバー＝4日

支援学校と交流も

メンバーの競技への理解が進むにつれ、当初の目的でもあった普及活動にも挑戦。第1弾として、11月中旬に同市中心部の岡山駅前商店街のイベントでボッチャ体験会を実施。手作りのボールを使い、参加者にルールや魅力を伝えた。

来年度には正式サークルとなる予定で、競技用具も少しずつそろえていく方針。梶谷さんは「県内の大学では珍しい存在のサークル。大学などの力を借りながら、競技に関する発信はもちろん、障害者と健常者が一緒に競技が楽しめる機会をつくっていきたい」と話している。